



Vol.19
2002

特集
雪を活かす! 冬を楽しむ!

Photo: 札幌市/第53回さっぽろ雪まつり



漢方にも使われた北海道原産種

ニホンザリガニ
甲殻類ザリガニ科エビの一種

日本固有種・ニホンザリガニは、本来は北海道原産種で北海道と東北部の、低水温できわめて清涼な水辺に棲み、今絶滅の危機に瀕しています。体長約5～6cm程度、アメリカザリガニと比べるとのっぺりしていますが、胃石は古くから漢方薬として珍重されてきました。

石狩川流域の芦別市「星の降る里百年記念館」は、昨年、ニホンザリガニの分布調査を実施しました。市民も参加して行った数量計測では、3ヵ所で約200匹を確認。豊かな森林を流れるごく浅い沢に生息するという共通の自然環境であることがわかりました。調査は今後も継続し、分布図を完成させるそうです。

●星の降る里百年記念館 Tel.01242-4-2121

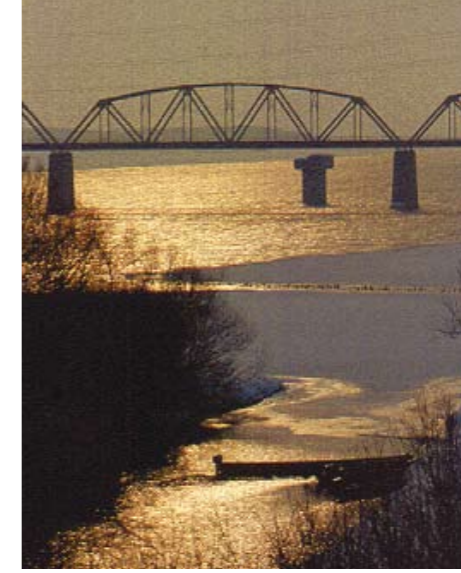


特集

特集 SNOW WONDERFUL
雪を活かす!冬を楽しむ!

これまで北海道では、
雪や氷は暮らしにとって邪魔なものとしていました。
ところが最近、雪をとりまく状況が一変しています。
あり余る雪は北国だけの産物。
発想を変えれば、冬の暮らしはもっと快適! もっと楽しい!

冬を 楽しむ 雪を活かす!



CONTENTS

特集・雪を活かす!冬を楽しむ!

雪を消す、雪を活かす

- 奈井江町/流雪溝・融雪溝・電気融雪槽 3
- 沼田町/米穀低温貯留乾燥調製施設
(スノークールライスファクトリー) 3
- 美唄市/美唄自然エネルギー研究会 4
- 長沼町/融雪溝 4

雪と遊ぶ、冬を楽しむ

- 砂川市/冬のフェスティバル 5
- 妹背牛町/ミックスカーリング
妹背牛大会 5
- 北村/フェスティバルIN雁里
きたむら田舎フェスティバル 6
- 石狩川特選ワカサギ釣り情報 6

インタビュー

- 北方鳥類研究所 石川 信夫さん 7



世界河紀行

- アメリカ合衆国における集水域を
単位とした河川環境保全施策について 9
北海道建設部河川課
計画係長 名取 哲哉氏

石狩川の歴史を語る書籍

- 「続石狩川治水史」 12
- 「川の道 石狩川の舟運物語」
- 「石狩川通信 石狩川の流れ」

流域の現在

- 東神楽町「花のまちづくり」 13
- 幌加内町「天使の囁きを聴く集い」 14

リバーズトピックス

- 北海道開発局 15
H13.9.10~12
秋雨前線と台風15号による洪水
~洪水の概要と治水効果
- 北海道開発局 石狩川開発建設部 16
「河川文化ディスカバーフォーラムin北海道」の開催について
- 北海道開発局 旭川開発建設部 17
大雪頭首工の魚道設置
- 北海道 18
愛宕新川の河川改修について
- 札幌市 19
真駒内用水環境整備事業

ニュース&ニュース

- 石狩川ルネサンスの森2001 20
- 恵庭市漁川4号床止めの新魚道 20

石狩川振興財団 活動報告

- 設立10周年記念事業 21
「石狩川治水—綿貫隆夫写真集」
- 記念植樹 21

- 第6回 石狩川サミット 21
- 石狩川舟運試験運航 22
- H13.親水体験親子
バスツアー 22
- 編集後記 22



雪を消す、雪を活かす。

奈井江町 流雪溝・融雪溝・電気融雪槽
完全無雪を目指して
排雪システムを網羅。

道央空知の豪雪地、奈井江町が流雪溝・融雪溝の供用を開始したのは平成8年の冬から。先進的な取り組みであるばかりか、石狩川流域下水道奈井江浄化センターの処理水を再利用したことで一躍注目を集めました。さらに、完全無雪化を目指し、処



石狩川流域下水道奈井江浄化センターの処理水を再利用。その後は奈井江川・クラマナイ川に排水。



町に帰ってくる時「奈井江の冬が変わった」と実感する(流雪溝)。

理水の水量の関係で行き渡らなかつた地点や、町民からの要望が高い市街地を中心に、電気融雪槽の整備を進めています。電気融雪槽は燃料補給の手間がなく、故障も少なく静かでクリーン。それまで同様、災害に強いまちづくりとして、使用しない時期は防火水槽や水洗トイレの非常用水、夏には雨水槽と兼用します。

つねに町民の声を聞き、真の快適を追求する。福祉の町ならではの取り組みです。



雪に輝くコメ「雪中米」はまたたく間に人気ブランドに。

沼田町 米穀低温貯留乾燥調製施設
(スノークールライスファクトリー)

春を越しても味が落ちない奇跡のお米。

0度付近で長期間貯蔵すると、新米同様の品質が保てるという、米の温度管理に着目し、「奇跡のお米」づくりをいち早く取り組んだのが沼田町です。雪を冷熱源に利用して、米を大量に貯蔵する世界初、米穀低温貯留乾燥調製施設は、平成8年に誕生しました。無尽蔵な雪を使うことで、電気冷蔵の1/5のコストで済み、環境にやさしい。も

利雪



貯雪庫の雪を融かして冷水を作り、熱交換を経て各室を冷房する。

美唄市 美唄自然エネルギー研究会

これぞ新時代の産業づくり。

平成11年、世界初の雪冷房マンションが美唄市に誕生しました。雪を冷房に活



雪冷房マンション(右が貯雪庫)

かし、除雪費や電気代を削減する一石何鳥ものマンション。逆転の発想は産・学・官で構成される産業クラスター「美唄自然エネルギー研究会」によるものです。雪冷房は介護老人保健施設や個人住宅にも導入され、成果を上げています。また、農業分野でも、国内最大級の米穀雪



野菜の通年供給や加工技術を研究。

零温貯蔵施設「雪蔵工房」を建

設。さらに「氷室貯蔵研究所」で作物の保存と加工技術の研究を続け、通年野菜や漬け物、水温熟成した味噌などを生み出し、建築や環境賞を受章しています。優れた技術と斬新な発想、実行力で発信し続ける美唄市。今夏、いよいよ同市で全国規模の「雪サミット」が開かれます。

長沼町 融雪溝

道内初、温泉水で融かす。

ながぬま温泉の廃湯を、仕切板でせき揚げて、その熱エネルギーでゆっくり融かす、北海道でも例のない融雪溝を中心市街地に設置、美しい冬の景観を維



北海道でよく見られる道路脇に積まれた雪。交通渋滞、事故の原因。



雪山のないスッキリした街並み。来訪者から「長沼町は雪が少ない」と言わしめた。

排雪



使ってこそその画期的システム。住民の協力なくして冬的美観は保てない。

持しているのが長沼町です。合理性とコスト削減、溢水事故もない。さらに24時間、除雪可能な点も特徴です。温泉水は希釈され、埋設した導水管から約100〜150mおきに融雪溝へ注水。10m間隔の投雪口に、それぞれ住民が雪を投げ入れる。約22度の温水は効率よく雪をと

雪や氷が流域の未来を拓く

◎雪に強い生活環境づくりのため、水量の豊富な河川から消流雪用水を供給する導水路等を整備する**消流雪用水導入事業**に取り組んでいます(旭川市、岩見沢市他)。

◎結氷させた冷気で農作物を保存する世界初の**愛別町ダイコロアイスシェルター**、氷を利用する空調システムと氷貯蔵庫が併設された**浦臼町の神内ファーム21植物工場**など、雪冷熱エネルギーは実用段階にまで成長、流域発展を担うものとして期待されています。

雪と遊ぶ、冬を楽しむ。

遊びあり、感動あり。

遊水地の8万²mもの敷地に、大雪像や市民雪像が連なる中、「子ども宝さがしゲーム」や「おましろ玉入れ大会」、砂利の採取で栄えた歴史を今に伝える、まちおこし「砂川ジャリンパ」という神様も登場。ジャリンパ言葉で子供達の願いを叶えます。「ホワイトウエディング」は、雪のステージで牧師さん立ち会いのもと行われます。昨年は出展テントが飛ばされる吹雪の中、選ばれた結婚10年目のご夫婦が白く染まるという、忘れられない結婚式になりました。



白銀のウエディング。たくさんの人と雪が祝福する。



チーム毎にハンデを設定する玉入れ。バットで回転してヨロつく姿に場内爆笑。

砂川市 冬のフェスティバル

■2月9日(土)10日(日) 砂川オアシスパーク

北村

フェスティバルIN雁里 きたむら田舎フェスティバル

■1月27日(日) 雁里沼・ふれあい広場

冬だつて外で遊ぼう!

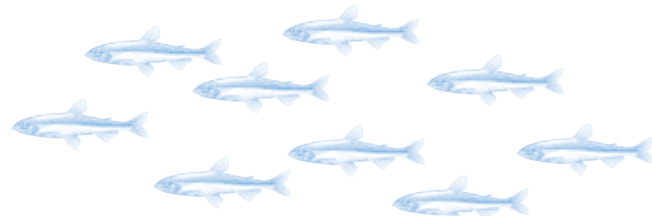
雁里沼は昭和27年の石狩川改修で生まれた三日月湖で、1年を通して遊べるレジャースポット。冬はワカサギ釣りが解禁されますが、この日だけは町民に開放。スピード、大きさ、数を競うだけあって真剣にアタリを待つ参加者、また、子供連れでのんびり楽しむ派も。村内では「きたむら田舎フェスティバル」を同時開催。鍋やお餅、北村産のおいしい牛乳を飲みながら、ゲームや競技に歓声をあげる。楽しさで寒さを忘れる1日。



釣りを快適に楽しめるテント。水辺に色とりどりの花が咲いたよう。

石狩川特選 ワカサギ釣り情報

結氷した川や湖、沼にドリルで円形の穴を開け、釣糸を垂らすとエサと光を求めて銀色のワカサギが現れる。ワカサギは天ぷらにすると美味しく、北海道では人気の釣りです。石狩川流域のポイントも、例年たくさんの人で賑わいます。泊まり込むほど熱心なファンを持つかなやま湖、幻の魚・イトウが釣れたという伝説残る朱鞠内湖、あらかじめ穴を開け、釣り方も教えてくれる桂沢湖…。特選ワカサギ情報を公開!



ワカサギ釣りはルールを守って!

ワカサギ釣りは環境保全や人の迷惑を考慮して、道具やゴミを持ち帰る、所定の場所で釣る、乱獲しないというルールを守り、気持ちのいい釣りを心掛けましょう。

場所	解禁時期・時間	問い合わせ	1日料金(大人)	その他
かなやま湖	12月末~3月中旬 特になし	南富良野町 ☎0167-52-2112	310円	ワカサギ釣りツアー有
朱鞠内湖	1月15日~3月末 日の出~16時	朱鞠内湖淡水漁業協同組合 ☎01653-8-2470	1,000円	釣り道具一式レンタル有
桂沢湖	1月中旬~3月中旬 日の出~日没	三笠市 ☎01267-2-3997	無料	釣り道具一式レンタル、ホテルとのパックプラン有
雁里沼	1月2日~2月末 日の出~日没	北村 ☎0126-56-2001	600円	釣り道具一式、テントレンタル、トイレ有
しのつ湖	12月中旬~3月中旬 日の出~日没	新篠津村 ☎0126-57-2111	400円	

※掲載したイベントならびにワカサギ釣り情報は14年、13年度のもので、来年についてはシーズン前にそれぞれの問い合わせ先に。

事前に穴を開けてある三笠市、桂沢湖。



多数のテントが彩る南富良野町、かなやま湖。



家族連れも多い北村、雁里沼。



妹背牛町

ミックスカーリング妹背牛大会

■1月12日(土)・13日(日) 遊水公園カーリング場



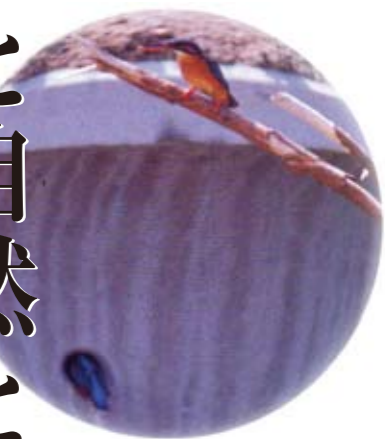
3シート(コート)の天然リンク。協会の手作りによるもの。

全道唯一の男女混合カーリング

長野冬季五輪での道産子選手の活躍で、注目されたカーリング。妹背牛町では、平成6年から、道内唯一の男女混合のカーリング大会を実施。手作りによる特設カーリング場で、女子1人を含めた4人編成で道内各地から約15チーム程が参加、熱戦

を繰り広げます。

町内でもリーグ戦や、全道大会に毎年出場し、予選を勝ち抜く実力チームがあり、屋内カーリング施設も建設予定と、妹背牛町発のスポーツとして育てていきます。



人と自然との共存の道を求めて

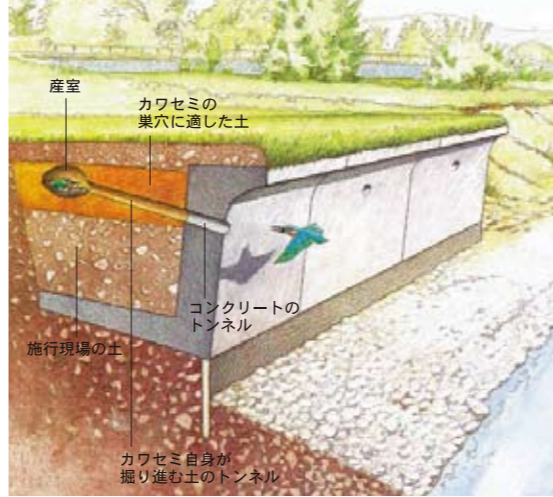
【インタビュー】

平成4年、旭川市内を流れる石狩川と牛朱別川に、飛ぶ宝石といわれるカワセミの営巣ブロックが世界で初めて設置されました。穏やかな物腰からは想像できない情熱と慈しみを持って、鳥を見守り続ける石川さん。歴史的装置の考案者です。



地道な観察と愛情が生んだ営巣ブロック

自 然の川は蛇行するのがあたり前、雨が降ったり雪解け水が流れるとぶつかるところがあるわけです。そこには崖ができ、反対側には砂州が形成される。そして次の年などに流れが変わると、新しい場所に崖崩れができる。その繰り返しで、自然河川には長年くずれないで残っている崖や新しくできた土の崖があり、切り立った土の崖に巣を作るのがカワセミやシヨウドウツバメです。でも水衝部は一番危険な場所なので護岸されてしまい、営巣場所がどんどんなくなっていました。



■営巣ブロックの構造としくみ



鳥を知るには鳴き声を知る。鳥を調査できる人材を育てるため、野鳥識別勉強会を約10年近く続けている。



Interview



大雪の鳥を調べたいという夢を持ち続け…

岩 手県に生まれ、東京芸大に勤務しつつ鳥の研究にあけくれた石川さん。いつか大雪の鳥を調べたいという夢を持ち続け、昭和39年に来道。険しい山道をもるともせず、大雪山を駆け回りました。

「北海道に来たら、まず生態が解明されていないギンザンマシコ（コムクドリほどの大きさで、雄が赤色の野鳥）を調べたいと探し続けました。10年かかってついに頂上付近に営巣を確認。今なら必ずどこにいるかわかります。カワセミの営巣ブロックにも、設置後2、3年は毎日のように通いました。今なら要点をつかんでいるので張りつく必要はありません。何しろめったに会えないカワセミが間近にいるんですから。いろいろな事がわかりましたが、飽きることはありません。」

現在の河川の問題は、すべて山林の荒廃によるもの。それが川に影響し、海に影響する。これからは一人が自然を守る根本の問題と考え、山林に活力を戻し、溪流への影響を少なくし、身近な川を考え、海をどうするか…。長い話ですが、まだまだ遅くはないはずですよ。

一方、戦後に工場廃水や生活排水が川にたれ流され、農薬の影響もあって川に水生昆虫や魚がほとんど姿を消した。その後それも改善され、春先になるとカワセミが渡ってくるようになりましたが、巣を作る場所がない。それで外敵に狙われやすい崖をも使わざるを得なくなった。私はそんなカワセミが可哀想でたまらなくなり、安全な高い崖を長く留める方法はないものかと考えた。それは結局難しく、ならば人間が作った巣穴ではどうだろうか、崖にいろいろな材料で作ったパイプを差し込んでみました。するとカワセミはどの材料でも入ってくる。それが、営巣ブロックのはじまりです。今では全国で設置されていますが、困っている鳥というのは利用するんですね。



石川信夫さん

北方鳥類研究所
日本鳥学会維持会員
財団法人日本野鳥の会・旭川支部長
カワセミ等河川水辺に営巣する野鳥研究会・会長



「カワセミはひじょうにきれいで、おもしろい習性の鳥」70年ものつきあいになるカワセミを見る目は暖かい。



アメリカ合衆国における 集水域を単位とした 河川環境保全施策について

北海道建設部河川課
計画係長 名取 哲哉



国立公園内の特に許可された場所でのみ、運航が認められている。エバークレイズのような草原の川は、普通のボートでの運航は不能。

調査の目的

北 海道では、平成14年度からラムサール条約の登録湿地であるウトナイ湖に流入する美々川において、自然再生事業に着手することを検討している。美々川やウトナイ湖は優れた自然環境を有しており、道民にとって将来にわたり保全すべき貴重な自然として位置づけられている。しかし、近年、周辺開発の進展に伴い、土砂の流入による湿原の乾燥化や、有機塩類の流入によるウトナイ湖の富栄養化などが危惧されているところである。

そこで、有効な対策の一つとして、バッファゾーンを設け、水辺緩衝林の整備や保全を行い、環境悪化の緩和を図ることにして検討を進めることとしているが、まだ、水辺緩衝林についての国内における調査・研究は緒に付いたばかりで情報が不足している。

そのため、今回、自然共生型公共事業の先進国であるアメリカを訪問し、おもしろい関係する行政機関やNGOから、事業に対する基本的な姿勢や考え方、具体的な整備手法などについて情報の収集を行った。

アメリカの環境政策

ア メリカの政策の日本との大きな相違は、政策の立案に関しては議員など政治の影響が極めて強いことで、環境NGOも影響力を議員に及ぼすことにより自らの主張を政策に反映させる方法をとっている。行政が政策に大きく関与している日本とは対照的である。

特に環境政策については、民主党のクリントン政権時は重要視され、連邦環境省など環境保全を担う行政機関の地位も高まっていたが、共和党のブッシュ政権になってからは、一般的には以前より「環境に優しくない」と考えているようであり、新たに勃発したシシミシシの影響も含めて、現在行われている環境保全政策や自然共生型公共事業が、今後どのように変化していくかについては予断を許さない状況にあると関係者は危惧しているようだ。

水辺環境保全の3つの方策

先 に述べたような背景を持ちながらも、河川や湖沼など水域全般に係る環境保全に有効な対策として、アメリカでは次の3つが主に行われている。

- 1 河川沿いに樹木や植生から構成されるバッファリーを設ける
- 2 農地を湿地に還元する
- 3 もともとの流れに還元する

注視すべきポイントは、いずれの対策も農業と強く結びついていることである。アメリカでは、農業や肥料が河川の水質や野生生物に与える影響を、農業の責任として十分認識している。国が環境保全の観点から重要と判断する場所については、営農の中止を促し、それに基づき農家が保全留保プログラム(CRP)に申請、一定の補助金を与えられ、草地や河畔林の育成や湿地の還元を行っている。

また、南フロリダ水管理局が管轄しているキシミー川流域では、汚濁の度合いに応じて農家に税金を課し、環境保全の原資としていることも聞いた。このような状況から、バッファリーや湿地の還元に関しては、連邦農務省にいろいろな技術的情報やノウハウがある。また、蛇行還元については、フロリダ州政府の南フロリダ水管理局が日本でも有名になったキシミー川で実施しており、データの蓄積がなされている。

○連邦農務省



農務省では3人の説明者からバッファリーや湿地の還元について説明を受けた。

訪問先の概要

灌漑用の取水や農業などによる不特定汚染(Non-point source pollution)の問題など、農業分野は水管理に深く関わっている。連邦農務省では、農業分野の集水域保全の取り組みを行っており、水管理を中心とした環境保全対策として、環境保全面積プログラム(ECARP)、およびその下位に属する保全留保プログラム(CRP)、湿地還元プログラム(WRP)などに基づき成果を上げている。特に水質汚濁や土砂流入を防止するための、河畔のバッファリーゾーンの整備について専門のセクションを持ち、農家と協働で事業を進めている。

これらの対策は全て、持続可能な農業の実現のために行われている。連邦政府はNational Standardとして最低限の規程を定め、州政府などが地域の特殊性を加味して調整を図っている。バッファリーについては、水温上昇防止、河岸の土壌崩壊防止、化学肥料など栄養塩類の流入防止、洪水防御、ハビタットの形成などの効用があり、その必要幅がマニュアル化されている。また、管理上、河川よりから順に、バッファリーを保全するゾーン、管理されたゾーン、草地ゾーンの3つに区分されている。ウェットランドの保全についても、農地化により水循環を乱した箇所やハビタットに影響を与えた場所などについて、プログラムの採択を行い、土地については永久、30年、10年の3パターンの地役権を設定している。農務省では、集水域面積が1,000km²未満の河川を対象としている。(それ以上は陸軍工兵隊が事業を行っている。)

○連邦環境保護庁

EPA (Environmental Protection Agency)

環境保護庁は、アメリカ国民の健康や自然環境を守ることを目的として1970年に設立された。河川や湖沼の水環境や生物生息環境を、自然の良好な状態に維持、または復元するための「水汚染防止法(Clean Water Act)」の主管官庁であり、影響を与える開発等に対する許可、承認(時には拒否)する権限を持つ。河川の集水域や湿地全般の保護という観点から河川や湖沼の環境保全に取り組んでいる。EPAでは様々な開発行為に対して、Clean Water Actに基づき規制や監督を行っており、開発行為が河川や湖沼に与える影響について厳しくチェックしている。違反した場合は、厳しい罰則規定があり、違反した企業に対しては、経営に影響を与える規模の罰金を課したり、責任者に懲役刑を課したりすることさえあるという。さらに、開発する以前のもの状態まで復元することが義務づけられる。また、この法律の第404条には、最も強力な条文として拒否権があり、建設を中止させることができる。このようにEPAには、Clean Water Actに基づく開発の規制に対する非常に大きな権限が与えられている。その一方で、wet landの保全還元にも力を入れており、湿地に還元すべき場所を、集水域単位で湿地の重要性について判断を行いながら選定している。EPAでは、そのためのwet landの復元、保全の規程を作成している。開発によりやむを得ず湿地をつぶすときは代償措置として別に湿地をつくる、つまり、湿地の総量を変えないno net lossという考え方を徹底している。



【上】 魚と同じように、普通にアリゲーターが見られる景色には、大変驚いた。
【中央左】 Ever gladesに流れ込む窒素の含まれた水を、農地を買収して建設した広大な植生浄化施設により浄化している。
【中央右】 エバークレイズ国立公園
【下】 草原の川と呼ばれるエバークレイズのハイキングコースのひとつ。アリゲーターやアオサギなどの野生動物が身近に見られる。



テロ事件の後、ホテルの入口に掲げられた国旗は、滞在中ずっと半旗の状態であった。

訪問先の概要

○フロリダ州環境保護省

フロリダ州は大湿地Ever Gladesを中心に自然が多く残されている一方、気候が温暖なことから、マイアミなど東海岸を中心に多くの人々が移住する傾向にあり、住宅開発や農業開発の脅威にさらされている。フロリダ州におけるユニークな自然保護施策として、「フロリダよ永久にプログラム」(Florida Forever)がある。これは、開発などにより影響を受けやすい土地を買い上げ、将来起こりうる開発から保護するプログラムで、既に40万haの買い上げ実績を持つ。また、大湿地Ever Gladesの保全のため約80億ドルを予算化した土地の買い上げや水質の浄化などの事業を進めている。

Ever Gladesは過去100年間の開発で、相当な延長にわたり、排水のための運河を掘削したため、乾燥化しエコシステムに支障を来している。今はかつての面積の半分の200万エーカーしか残されていない。生態系は自己維持(Self sustaining)できない状況に陥り、人間に対しても害を及ぼすようになってきたため復元を目指すこととなった。復元計画は、シンクホールと呼ばれる石灰岩質独特の地形の洞穴等に一時貯留しEver Gladesを流下させることや、Ever Gladesに流入する雨水排水を一時貯留し、植生により浄化させるような施設を設置している。これらは莫大なコストがかかるが、コストがかかるのでやらないという選択肢は、将来的に大きな損失となることから取り組まなければならないと考えている。

土地に対し、法的な規制をかけることについては私有権の侵害に当たり、一般には同意を得られないため、買い取りして保全を図る。私有地を公有地に移して保全を図るという考え方が基本である。所有権は手放さないで、開発権、使用権を買い上げる方法や、次の世代に公有地化する方法、リースバック方式といって公有地化した後、リースで使用するなどいろいろな選択肢により交渉に当たっている。

○南フロリダ水管理局

フロリダ州では、州内を5つの集水域単位に分割し、それぞれに管理局において水管理を行っている。南フロリダ水管理局は、大湿地Ever Glades、Kissimmee川などを管轄している。エバーグレイズ復元投資法(Ever Glades Restoration Investment Act)に基づく湿地の保全復元やKissimmee川の再蛇行化などの再自然化事業を行っている。

水管理局は水に関する全権を有している組織。住民からの徴収権を持ち、州政府からも独立している。

Ever Glades Construction Project(ECP)に基づき、Ever Gladesに流れ込む過剰栄養分(特にリン)の除去のため、農地を買い上げ(45,000エーカー/180km²)湿地化する。建設費用の3割は、原因者である農家が負担している。農家は河川を汚濁する分だけ、税金を多く負担するシステムとなっており、所有地の外にリンが出ていかに化学肥料や土壌の流出を抑制するBest Practice Managementを行っている。このように水質をコントロールするほか、水量の確保、薄く広い面積を流れるように分配する方法などを包括的に検討している。

Ever Gladesに流れ込むKissimmee川については、以前は全長166kmで幅3~4km、28,000haの氾濫原を持っていた。しかし、集水域内の農地開発や都市の開発に伴い、相当な延長にわたり排水や洪水対策のための運河を掘削したことにより、1/3の蛇行が消滅し氾濫原の2/3が乾燥化した。その結果、エコシステムが狂い生物の減少が続いたため、復元に対する運動が高まることとなった。

復元については、約20年間の調査結果を基にUCLAで実験し解析を行った。昨年3月までに12kmの直線部を再蛇行化し、運河を埋め戻し、不要となった堰を2箇所撤去した。上下流域には市街地があるため、治水対策として堰を伸長したうえ、運河には手をつけず。中流域の農地の部分35kmについて、土地を買い上げて再蛇行化し、運河を埋め戻す計画で、100年確率に相当する氾濫原を買収する。オリジナルの氾濫原に復元する計画である。上下流域については、再蛇行化は不可能であり、堤内側の未利用地に水を入れて湿地化を図るなどの緩やかな方法での復元を検討中。

おわりに
ずれの訪問先でも、野生動物や自然を守ることは、人間が持続的発展を遂げるためには不可欠かつ当然のことと考えており、コストベネフィットを数量的に検討している例はなかった。また、民有地の開発に対し、役所が法的に規制をかけたことには、民の権利が発達したアメリカ社会では限界があるため、バイアウトと呼ばれる土地の買い上げが一般的に行われている。日本でよく紹介されているキシミー川も、運河を埋め立て昔の蛇行を復元しているわけだから、当然河川の氾濫は以前にも増して起きることとなる。この対策として行われているのが、氾濫原の農地を100年確率規模でバイアウトすることである。このように、アメリカのスケールは大きく、そのまま日本の社会に取り入れられるものは少ないかもしれない。しかしながら、まだまだ学ぶべき点も数多くある。今回は、最初に述べたように行政機関やNGOから、

事業に対する基本的な姿勢や考え方、具体的な手法などについて幅広く情報の収集を行った。今後は、さらに連邦農務省や南フロリダ水管理局とコンタクトをとり、現地の詳細な把握を行う必要があると考えており、今後の調査に期待したい。
なお、訪米中の9月11日に、世界中を震撼させたあの忌まわしいテロ事件が発生した。折しも同時にフロリダ州内を飛行機で移動しており、アメリカ社会の緊張を肌で感じる結果となった。亡くなった方々のご冥福を祈るとともに、帰国の日程も長引くこととなり、各所にご迷惑やご心配をおかけたことをここにお願い申し上げます。



ロナルドレーガン空港を飛び立った直後の飛行機の窓から見たワシントンD.C.の景色。

激動の近代治水20年を集約
続石狩川治水史

(B5判 全978頁) 石狩川開発建設部

「続石狩川治水史」は、昭和55年に石狩川治水70年を記念して発行された「石狩川治水史」の続編で、石狩川治水90年の節目として作られました。この20年、石狩川は未曾有の昭和56年8月洪水に遭遇し、また河川行政も社会情勢の変化とともに、新しい時代を迎えました。「続石狩川治水史」はこの20年間の石狩川治水事業にかかわる主要な事項を、治水事業に携わる河川技術者、OBが知識と経験を生かしてまとめている他、各分野の専門家の貴重な意見や体験が収められています。

●第1編「この20年間の石狩川治水事業にかかわる主要事項等」、第2編「河川事業」、第3編「ダム建設事業」、第4編「砂防事業」、第5編「河川管理」、第6編「石狩川に関する研究及び国際研究交流」で構成



昭和56年8月洪水や河川法の改正、新たな時代の要請に取り組んだ20年。



舟運の歴史を今に伝える
川の道 石狩川の舟運物語

(A4判 全10頁(財)石狩川振興財団



歴史に残る名舟、川が暮らしの中心だった時代を偲ぶ

石狩川が唯一の交通路として利用されてきた、開拓当初から現在までの舟運の足跡を、わかりやすくまとめた「川の道 石狩川の舟運物語」。開拓民が大木を切り倒し作った丸木舟、樺戸集治監を行き来した監獄汽船「神威丸」、舟運盛んな頃に活躍した外輪鉄船「上川丸」。そして、現在道内に残る唯一の渡し船「美浦丸」など、時代を代表する名舟とともに当時の暮らしを伝えています。



石狩川治水資料
石狩川通信 石狩川の流れ

(A4判 全265頁) 石狩川開発建設部 編集・久米洋三

北海道開拓期から人々がどのように石狩川や洪水と取り組んできたかを、故久米洋三氏が当時の新聞記事をくまなく抽出、「石狩川通信 石狩川の流れ」という月刊の新聞形式にして、昭和63年から発行し続けました。その数は100号を悠に超え、今回資料集として一冊に編集しました。石狩川治水のきっかけとなった、明治31年9月洪水の状況や北海道治水調査会の動きを克明に追った記事、時流や人々の喜怒哀楽、各号の編集後記では久米氏がわかりやすく解説しています。



久米氏のライフワーク。ひとりの河川技術者の想いが込められている。

石狩川と人々の歩みを振り返る

※「続石狩川治水史」は行政機関や道内の図書館等、また石狩川開発建設部・地域振興対策室では「続石狩川治水史」と「石狩川通信 石狩川の流れ」、その他石狩川に関する資料を開覧できます。
※「川の道 石狩川の舟運物語」については、(財)石狩川振興財団まで

日本を代表する 四季の花風景

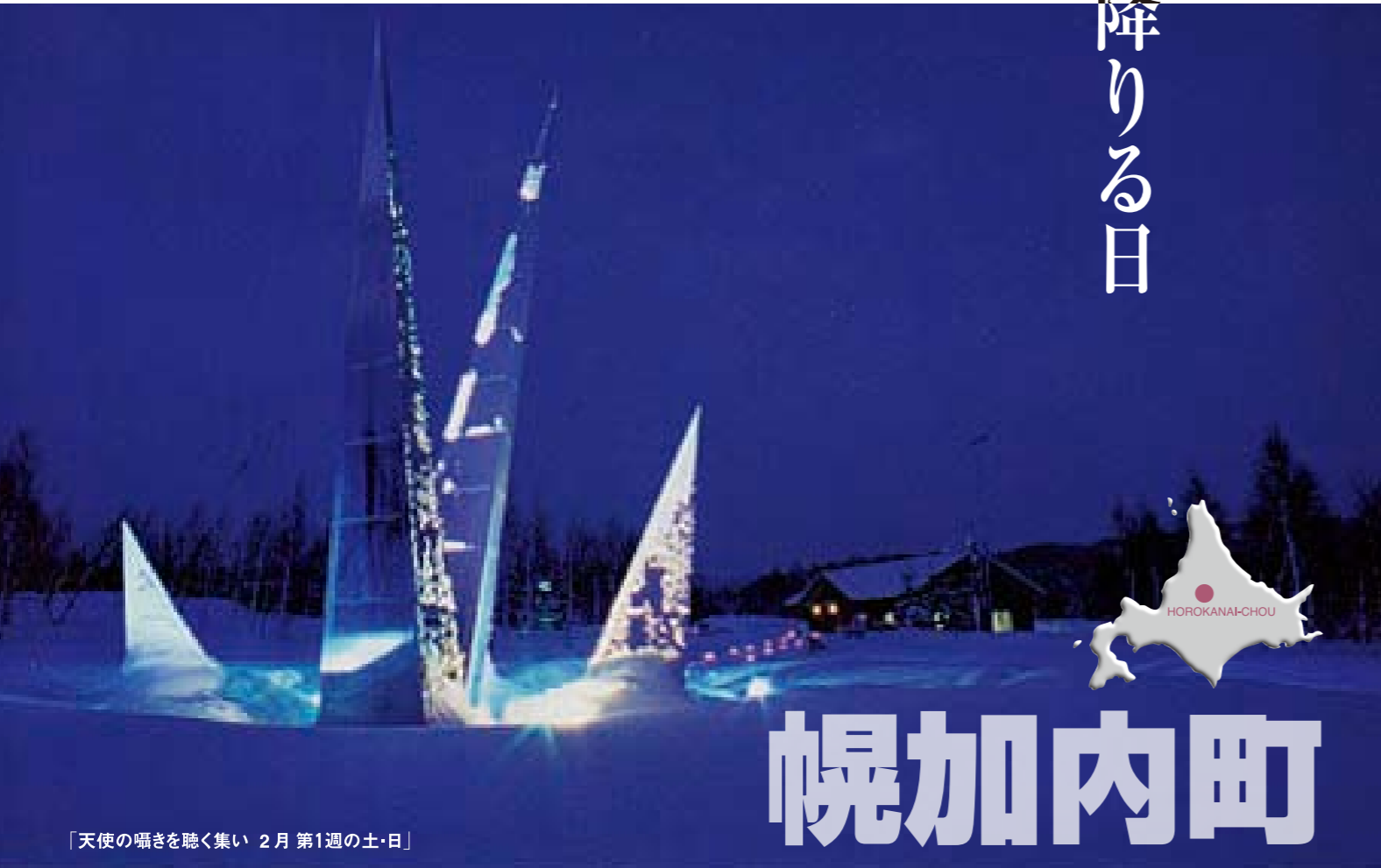
大雪山連峰のすそ野に広がる町は、春がくると鮮やかに彩られる。40年以上も花のまちづくりを進める東神楽町は、平成12年、第10回「全国花のまちづくりコンクール」市町村部門の最優秀賞（建設大臣賞）を受け、国際的な花のまちづくりコンクール「コミュニティーズ・イン・ブルーム」に、山梨県河口湖町とともに日本で初めて参加するなど、トップクラスの花の取り組みが世界に認められています。

昭和30年代の東神楽町は純農村地帯で、カヤハエの発生源となりうる空き地が多数あり、こうした場所に住民が花を植えたのをきっかけに、花いっぱい運動はどんどん広がっていきました。現在では個人宅や町内会の花壇、150にも及ぶ公共花壇など、四季を通じて美しい街並みが形成されています。ただ植えるのではなく、苗づくり、地区や個人等への様々な助成や支援、広報活動、景観づくりなど住民と行政が一体となった取り組みには、ふるさとの想いと誇りさえ伝わってきます。

最寒の地に 天使が舞い降りる日

「母子里の郷には天使たちが棲み、寒い朝には囁きが結晶になって降り注ぐ。」「天使の囁きを聴く集い」は、昭和53年2月17日にマイナス41・2度という国内最低気温を記録した母子里の寒さを、心豊かにする資源に活かそうと昭和62年から毎年2月に行われる、寒さで空気中の水分が凍ってできた氷の微粒子「ダイヤモンドダスト」を観る催しです。

1泊2日のプログラムは50名ほどに限定した参加者と、イグルーバーを作りアイスグラスでパーティー、翌日は雪の結晶レプリカ作り、童心に戻って雪遊び。派手な演出は一切無用、雪や寒さがこんなにも素晴らしいものと実感し、都会と最寒の地に住む者との心の交流と共感をなによりも大切にしています。ダイヤモンドダストは天候によって観られないこともありますが、町内の若者を中心に主催する手作りイベントは、この経験を自らの人間形成の一場面に、という主催者の清廉な心が参加者の胸を打つ、ふれあいの2日間です。



幌加内町

「天使の囁きを聴く集い 2月 第1週の土・日」

雨竜郡幌加内町字母子里
事務局／Tel. 01653-5-3366(小野田倫久)
http://www.d1.dion.ne.jp/~t_onoda



東神楽町

上川郡東神楽町南1条西1丁目
Tel. 0166-83-2111
<http://www.town.higashikagura.hokkaido.jp/>



【左】アイスクャンدل「天使の囁き」が白樺林をやさしく灯す。
【右】参加者すべての名前を覚えると、交流がはじまる。



【左】近くに忠別川が流れるひじり野公園。
【右】メモリアルホールに合わせた円形の花壇。息の長い活動が色彩豊かな街並みを作り上げた。

H13.9.10~12

秋雨前線と台風15号による洪水 ～洪水の概要と治水効果



凡例
 ■ 2施設がない場合に冠水の可能性があった区域
 ■ 確認されている冠水区域



【上段】石狩放水路の効果
 【下段右】20年ぶりに警戒水位を超えた豊平川
 【下段中央】北白石川付近の浸水状況
 【下段左】放水路水門

洪水の概要

昨年9月9日から降り始めた雨は、秋雨前線および台風15号の影響で、北海道全域に昭和56年以来となる強い雨をもたらしました。この大雨の影響により、北海道内13水系41河川78観測所で警戒水位を超えました。

石狩川流域においては、流域平均雨量170mm以上（総雨量、速報値）の雨が降ったため、石狩大橋地点で昭和63年の洪水以来13年ぶりに警戒水位を超えました。

ダムの効果

石狩川水系の直轄7ダム（大雪ダム、金山ダム、滝里ダム、桂沢ダム、漁川ダム、豊平峡ダム、定山峡ダム）で約9、800万m³（札幌ドーム約65杯分）の洪水調節を行い、下流の水位を低下させるなど洪水調節を発揮しました。

ぶりに警戒水位を超え、豊平川でも昭和56年の洪水以来20年ぶりに警戒水位を超えました。

排水施設の効果

石狩川水系には、直轄の河川管理施設として排水機場25箇所、救急排水ポンプ9箇所、計34箇所の排水施設が配備されていますが、今回の出水においてこれら排水施設のうち31箇所の施設が稼働し、総量で約2、450万m³（札幌ドーム約16杯分）を排水し、内水氾濫の低減に効果を発揮しました。

石狩川放水路の効果

今回の出水により、石狩川本川の水位が上昇したため、石狩川の支川である茨戸川では運河水門を閉じるとともに石狩放水路水門を開き、茨戸川の水を約1、110万m³（札幌ドーム約7杯分）を石狩放水路から直接日本海へ放流することで、水位の上昇を防ぎました。石狩放水路と運河水門の2つの施設がない場合、茨戸川の水位がさらに約1・2m上昇し、茨戸川周辺の内水氾濫の低減に効果を発揮しました。

北海道開発局 石狩川開発建設部

開催趣旨及び概要

「21世紀に向けてよりよい新たな川と人の関係を構築することを目的に、北海道の川について語り合い、川と直接ふれあう体験を提供する」という趣旨で、主催・北海道新聞社、全国地方新聞社協会、後援・北海道開発局、(財)石狩川振興財団ほか、協力・NPO等団体、第3回世界水フォーラム事務局という形で開催されました。メインイベントは7月17日(火)に基調講演及びパネルディスカッション、併催イベント「川の時刻表体験列車」を29日(日)に開催しました。

河川文化ディスカバリーフォーラムin北海道

第1部は「北海道治水の歴史(二十世紀日本の川 北海道編)」をビデオ上映しました。第2部は早稲田大学の吉村作治教授による基調講演「川と文明」。著名なエンジニア考古学者で、「ナイル川は4大文明の中で唯一南、すなわち熱帯雨林に水源を有し、流れが安定していることから、治水に労力を使わなかったため、ピラミッド

「河川文化ディスカバリーフォーラムin北海道」の開催について



4名のパネラーが、それぞれに川への想いを語ったディスカッション。

のような大規模な建築も可能であったこと、「乾期はナイル川が運んできた土で農業、雨期はピラミッドを建設し、ピラミッドに使った石もナイル川を使って運んだ」など、エジプト文明とナイル川との関わりについて話されました。

第3部はパネルディスカッション。北海道新聞社編集員の田村雄司氏をコーディネーターに、北星学園大学教授の辻井達一氏、(有)ニセコアドベンチャーセンター代表取締役のロス・フィンドレー氏、(株)らむれず代表の木原くみこ氏、石狩川開発建設部長の田口哲明氏の4名のパネラーで「川と人のつながりを考える」をテーマに、川のイメージや川とのつき合い方について、街頭インタビュアーのビデオを見ながらディスカッションしました。ここでは、川と人のつながりが昔に比べて希薄になっている点、今後の川と人のつき合い

川の時刻表体験列車

平成12年夏に作成された「川の時刻表」を実際に体験していただくという企画です。応募者が600名にも達したため、急遽1両増結して5両233名の方々が増加して実施されました。列車は函館本線、札幌駅～滝川。滝川から根室本線で新得まで。ここから

方について意見が述べられ、田口氏から「21世紀は川に恩返しをする時代になりたい。20世紀の私たちの生活に様々な恩恵を与えてくれた川へのいたわり、感謝を込めて川とつき合えたらと願っています」との発言で終了しました。

折り返し、石勝線・千歳線を通じて札幌へ帰ってくるコースです。列車には川のガイドとして本局河川計画課及び石狩川開設計画課の職員が乗り、川の説明や車内イベント(キップ切りによる検札やクイズ大会など)を実施。また、金山湖のほとりの東鹿越駅では、弾き語りやバルーンパフォーマンスなどが催されました。昼食は鉄橋と太陽をあしらった特製弁当が配られ、豊平川や空知川の河川敷でのカワツブピー・スイッピーの登場など、参加者の方々には様々な思い出を持って帰られたと思います。さらに、当日撮影したビデオや写真を展示した写真展が、9月8日(土)～12日(水)に札幌駅西口コンコースで開催、初日の8日には、参加者の中から応募いただいた写真コンクール表彰式も実施されました。



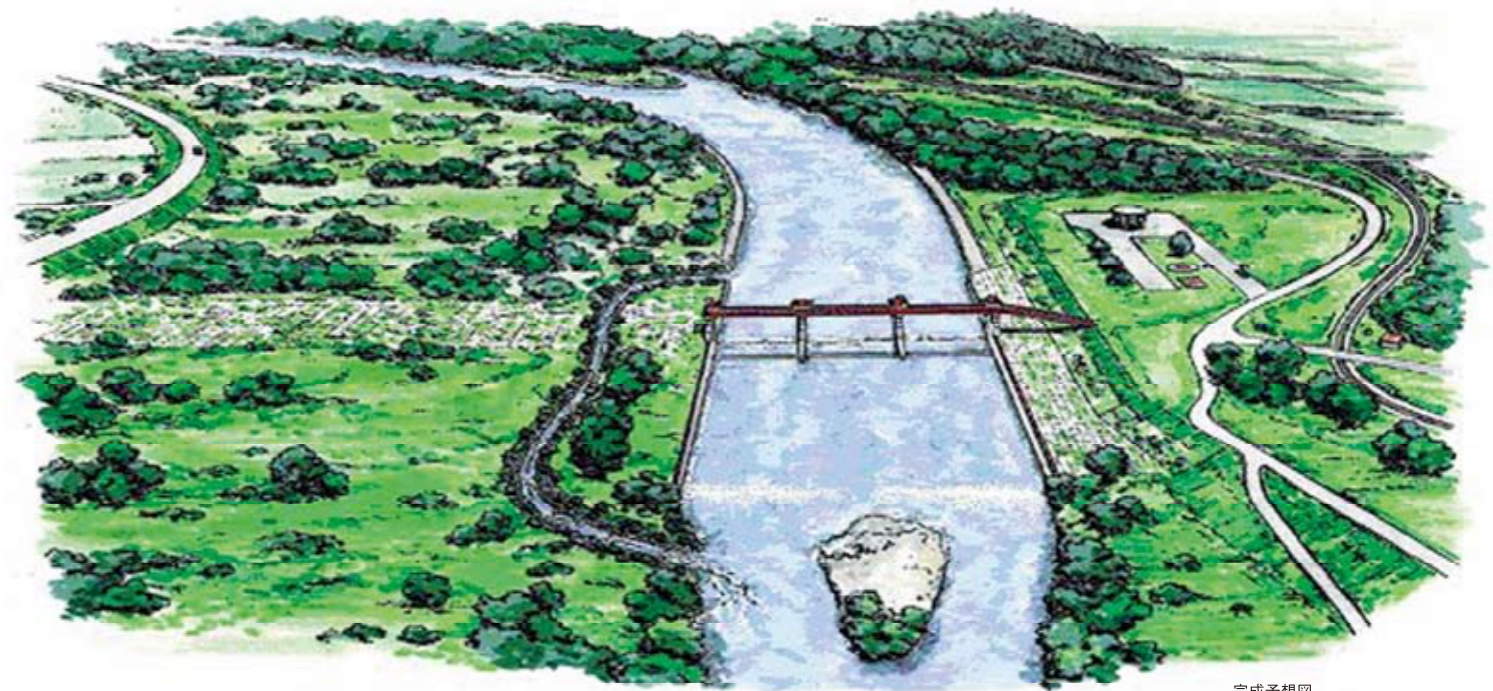
雄大な金山ダムの上を通過する、いちばんの見所。

北海道

http://www.pref.hokkaido.jp/kensetu/kn-kasen/kasenkahome/coverp.htm

旭川開発建設部

http://www.as.hkd.mlit.go.jp



完成予想図

魚がのぼる自然豊かな川づくりを目指して

平成13年度には、大雪頭首工(愛別町)に魚道を設置します。魚道の設置にあたっては、学識者から指導・助言を受け、魚を魚道に誘導するための呼び水水路を設置する予定です。魚が遡上するうえで障害となっていた頭首工に魚道が整備されると、近い将来、石狩川上流の上川町にも放流したサケが上ることも期待されます。

大雪頭首工(愛別町)の魚道設置

石狩川は、平成6年度に「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル河川」の指定を受け、旧花園頭首工(深川市)に魚道を設置するなど、計画的に河川を横断する堰・床止・ダム等の施設の改良や魚道の設置、改善等を進めてきました。

今後は、大雪頭首工に引き続き、石狩川上流の愛別頭首工や石狩川愛別頭首工にも魚道を設置する予定にしています。

また、魚道が自然とふれあう環境教育の場や、小学生による稚魚の放流活動の場として利用できるように親水スペースの整備も行います。



【上】親水スペースは、子供達の学びと遊びの場に。【下】子供達によるサケの稚魚放流。上流への遡上が期待される。

愛宕新川は、基北川・小股川・ポンウシベツ川・難波田川の洪水を、旭川市街地上流でカットし牛朱別川へ合流させる外郭放水路です。「川と人」第11号でも着手までの経緯や、「ふるさとの川整備事業」として、地域の意見を取り入れた計画立案について掲載しましたが、今回はその後の状況を報告します。



【上】散策路の完成部。舗装され桜が植樹された。【中央】雑草の植生も回復、低水路は蛇行させ河岸に変化をつけた(H11年施工箇所)。【下】河岸にはヤナギの植生回復がみられる。

旭川市・愛宕新川の河川改修について

まず平成11年に、関係町内会の会長を招き、これまでの問題点や意見を聴きました。散策路への車の進入、河道内のヤナギや「ゴミ」、草刈りなど維持管理、植樹の樹種の要望が出され、以下のように今後の工事に反映させることとしました。

- 車止めを設置し散策路への車の進入を防ぐ
- ヤナギは貴重な自然再生であることを理解してもらい、治水上支障にならない範囲で維持管理
- ゴミは年一回ボランティアで行われる清掃活動を協力して継続
- 川沿いには各町内会との話し合いにより、旭川市が桜の植樹に着手

次に、ふるさとの川整備委員会で掲げた5つの基本方針がどのよう

に反映されたかについてです。

◎自然環境の創設—ヤナギの生育が思った以上に早く、カモなどの水鳥を確認、牛朱別川との合流部ではウグイ釣りを楽しむ人、支川の合流点付近ではドジョウを確認、驚くほどの回復力を見せる。

◎水環境の復元—4河川の残流域には計画に基づき、それぞれの上流部で取水して、維持用水を流下させており、水不足や悪臭の苦情もなく、また、愛宕新川も一年を通し、安定した維持流量が流れている。

◎コミュニティの形成—開拓当時から一体となった地域を分断することになったが、橋梁や水路橋の設置など、住民の往来や水利用に支障のないようコミュニティの形成を図っている。

◎防災拠点としての整備—緊急時に消防車利用できる消火用水ピット設置。

◎レクリエーション空間の形成—旭川市では中流部の左岸散策路に隣接して東豊公園を完成、上流左岸側には、建設中の東郵便局に隣接して憩いの場を設け近く完成を予定。さらに上流右岸に老人ホームも新設される計画で、あわせて道でも緩斜面や芝生広場を設け、安全面に配慮し快適に散歩できるような施設造りを行う。

このように、施工前・施工中と地域の意見を聴きながら実施し、現在、工事はほぼ完成、平成14年度に一部の植生を残すばかりとなっています。また、旭川市で実施している散策路も、舗装・桜並木の全体5.0kmのうち、約0.6kmが完成し、残る部分も平成15年の完成を目指しています。散策路完成後も旭川市と共に地域の意見を聞く機会を設け、意見・要望をできるだけ多く、反映させて行きたいと考えています。



より水と親しめるよう置き石も配置。子供からお年寄りまで利用できる憩いの場へ。

石狩川ルネサンスの森2001

●シンポジウム6月9日(土) ●記念植樹祭6月10日(日)

流域で行われている「石狩川流域1人1本300万本植樹運動」を記念した、「石狩川ルネサンスの森2001」が滝川市で行われました。1日目は、98年に日本ユニセフ協会大使に就任されたアグネス・チャンさんが、祖国の中国文化や医学等を例に水と緑の大切さを語り、その後林滝川市長をコーディネーターにパネルディスカッションが行われました。翌日、秋には色とりどりのコスモスが咲き乱れる丸加高原の、21世紀の森を「ルネサンスの森」に改称して、関係者と市民ら500人が記念植樹に参加。従来の方法に加え生態学的混播法と紙製ポットにより、48市町村それぞれのまちなみ、計2,263本56樹種が植えられました。

「ルネサンスの森」は水源地の緑化を呼びかける、未来へ紡ぐシンボル事業です。そのため滝川市では、住民参加の「緑とエコ」サポーターネットを立ち上げました。現在150人が登録、NPO取得を目指し、流域市町村と連携してルネサンスの森を育てていきます。



「植樹を楽しみにしていた」アグネス・チャンさんはご子息と参加。

水源地に緑を!

滝川市から発信

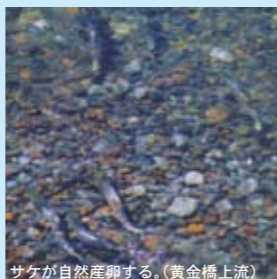
住民参加のサポーターネットを立ち上げ、「ルネサンスの森」を増やしていく。



恵庭市 漁川の4号床止の新魚道

サケが上る漁川に戻そうと、平成5年からサケの飼育と放流活動が続けるえにわ市民サケの会。現在、ほとんどの小学校でサケを飼育しています。このように恵庭市は住民レベルの活動が活発で、千歳川河川事務所では、落差で魚の遡上を阻害していた4号床止に新しい魚道を設置するにあたり、サケの会や専門家等を交えたワークショップを開催し、意見を反映させた魚道を昨年3月に完成させました。

そして9月20日午前。市街地の恵庭大橋と黄金橋にそれぞれ10匹ほどのサケの群れを確認。その後も続々とサケは上り、産卵のため川底を掘る。街中での自然の光景に、見物人が絶えません。今秋、サケの会では遡上調査に乗り出し、飼育も全中学校に広げることを目指しています。さらに恵庭市と千歳川河川事務所では、市街地でもカワセミが営巣できる川づくりのための住民参加の研究会を発足するなど、川を想う人々によって、漁川は自然豊かに生まれ変わっていきます。



サケが自然産卵する。(黄金橋上流)

想いが一つになって、漁川にたくさんのサケ上る

発眼卵の9割を稚魚に育てる恵庭市の小学生。放流式では稚魚にエールを送る。

リバーズトピックス

札幌市

http://www.city.sapporo.jp/city/

はじめに

真駒内用水は明治初期の北海道開拓時に、外国人教師エドウィン・ダンの指導を受け、農業用水路として整備されました。一級河川真駒内川の水を平岸地区や白石地区の牧牛場や水田へと運ぶ延長30kmの一大水路網の一つでした。その



後都市化が進み、水路の大部分は埋め立てられました。真駒内用水はそのまま残り、現在は札幌市南部地域の拠点となっている真駒内地区の貴重な水辺空間として新たな役割を担っています。

環境整備の経緯

農業用水路としての役割をほぼ終えた昭和30年代に、真駒内地区の大規模住宅団地造成が行われ、真駒内用水の護岸も整備されました。その後40年近く経過し、玉石護岸が削がれ落ちる等、老朽化が目立ってきました。一方、地元



【上】H13「第10回札幌市都市景観賞」を受賞。より地域に親しまれる川へ。
【下】開拓当時の姿の復活をテーマに、玉石護岸の再生や憩いの空間を創出。

環境整備の概要

町内会を中心として開拓当時の水辺空間を復活させようという意向が強まり、市もこういった動きを受けて、環境庁(当時)補助事業のメニューの一つである「身近な水辺環境再生事業」により、平成9年度から環境整備に着手しました。

開拓当時の姿の復活が基本テーマですので、抜本的な河川改修ではなく、玉石護岸の再生や散策・休憩スペースの創出を中心として整備を進めています。これまでに計画延長1・3kmのうち、ほぼ半分の整備を終えています。また、地域住民とは協議を密に、要望を確認しながら整備を進めてきた結果、ゴミ拾い等の活動も町内で自主的に行われるなど、川への愛着も一層強くなっているように思われます。

おわりに

平成13年度に真駒内用水は「第10回札幌市都市景観賞」を受賞しました。この賞は札幌らしい都市文化の美しさを目指した取り組みを表彰するもので、まさに地域住民のこれまでの熱意・努力が身を結んだものといえるでしょう。今後ともこれまで同様、地域住民と創意工夫を重ねながら地域に親しまれる河川整備を進めていきたいと考えています。

石狩川振興財団 活動報告

石狩川治水の姿をとどめる 「石狩川治水―綿貫隆夫写真集」

ダム、遊水地、河川公園、魚道、大自然にとけこんだ治水施設の光景を収録。



石狩川の悠久の流れは、先人の築いた治水施設とあいまつて、石狩川独特の景観を形成、流域の発展に先導的な役割を担って来ました。このたび10周年を記念して、石狩川の代表的な治水施設を一冊の

11/30FRI

まちづくりの目標を語る 第6回石狩川サミット

11/8THU

見沢市で、石狩川流域48首長が集う石狩川サミットが行われました。アクションプログラム進捗状況では、石狩市がGISへの取り組みを、南富良野町は上流域の森林の必要性を訴えました。討議では環境、産業振興、歴史・文化、IT活用分野から首長がそれぞれに、防災や森づくり、クリーン農業、農村と都市の交流、利雪にリサイクルなど地域個性を生かしたまちづくりを発表、また治水対策の重要性も触れられました。



環境、産業振興、歴史・文化、IT活用の中から、それぞれの取り組みを発表。

石狩川流域の発展という願いをこめて 記念植樹

6/10SUN

これからも石狩川等とともに 石狩川振興財団 設立10周年記念事業

石狩川等への感心を高め、流域発展の一助となるべく活動してきた石狩川振興財団は、平成13年に設立10周年を迎えました。さまざまな広報活動を通じて得た、たくさんの出逢いを胸に、私達は新しい一歩を踏み始めます。

前 ページで紹介した、石狩川1人1本300万本植樹運動を記念した「石狩川ルネサンスの森2001」で、石狩川振興財団は滝川市の丸高原に記念植樹を行いました。スモモにウメ、エゾヤマザクラやナナカマド他、20本。まだまだ小さな木々ですが、石狩川の未来に向かって、元気に大きく育てていきたいと思



新たな一歩を象徴する木々。



第6回石狩川サミット宣言

わが国は未曾有の困難な経済局面にあり、聖域なき改革は不可欠とされるが、積雪寒冷の広大な大地にあつては河川・道路等の社会資本の充実を喫緊の課題とする北海道にとって、極めて大きな影響を及ぼすことが懸念される。第6回石狩川サミットは、こうした情勢に鑑み、環境、産業、歴史・文化およびITにかかわる討議を行ったが、その成果を踏まえ、流域の連帯を一層強め、衆知を集めて個性ある地域の活性化を図り、21世紀のまちづくりを推進する。



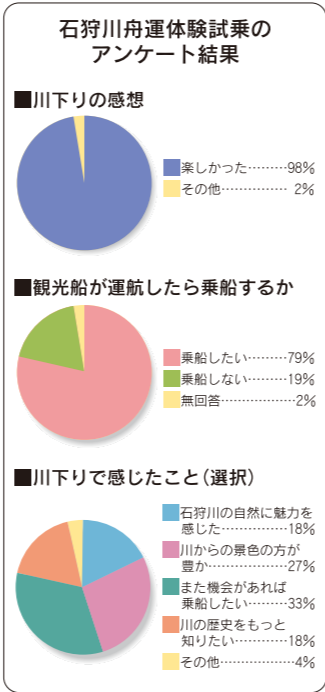
石狩川舟運試験運航

舟運ふたたび！歴史とふれあう3日間 石狩川・千歳川自然歴史探訪

石狩川の舟運は昭和10年まで交通路として利用されていきました。現在舟運は、環境面や文化面から見直されています。3mの安定感抜群のEボートで千歳川を下り、防災と川の

駅の機能を持った江別市防災ステーションからは調査船・弁天丸に乗り換え、石狩川と茨戸川を下りました。舟運の課題把握のため、参加者にアンケートも実施。今後の計画に生かし、舟運実現に向けて検討を続けていきます。

8/5SUN



9/14FRI. 15SAT. 16SUN

親子も大奮闘！ H13・親水体験親子バスツアー〜石狩川中流〜

札幌 幌近郊の長沼町内の小学5、6年生とその保護者を対象に行われた、親水体験親子バスツアー。オープン以来大好評の芦別市滝里ダムと資料館、滝川市川の科学館を見学し、ラムネ川でカヌーに挑戦しました。応募いただいた写真と作文の中から、大賞作を紹介します。



たくましさが増す瞬間をとらえた岡さんの作品

- 受賞者一覧
- 作文の部
 ●大賞/舞鶴小学5年生—加藤 美鈴
 ●優秀賞/北長沼小5年生—土井 佑也
 ●優秀賞/長沼中央小5年生—平野 茂幸
- 写真の部
 ●大賞/長沼町——岡 孝之(父)
 ●優秀賞/長沼町——山本 利幸(父)

◎「作文の部」大賞 加藤美鈴 舞鶴小学校5年生

私が親水体験親子バスツアーで一番思い出に残ったのは、「カヌー」です。なぜカヌーが一番思い出に残ったかというと、カヌーは、初体験で、最初は怖かったけど、だんだん慣れてきて、いろいろできたからです。私は柴田華子ちゃんといっしょに乗りました。時々舞鶴小の友達や西小の人にぶつかったりしたけど、バックなど教えてもらったことを挑戦して、それがどんどんうまくなって来たのですごくおもしろかったです。水エボートをそうじゅうして、おじさんに「へただなあ」と言われたことも、おもしろかったです。また初めてカヌーを洗ったり、オールも洗えたのが良かったです。

次に思い出に残ったのは、お弁当を食べたあとに行った、科学館です。サメやカメやいろいろな魚を観察しました。私が一番いやだったのはバスでよったことです。だから今度バスに乗る時は景色を見ながら行きたいと思います。でも私はカヌーに乗って一つ悲しいことがあります。それはピニールがくるやいろいろな「ミ」が落ちていたので、前に私はお姉ちゃんと外の「ミ」をひろったことがあるので、それをまたお姉ちゃんややりたいです。そして川や海や湖を少しづつきれいにしてほしいです。私はしょうらい保母さんになりたいので、もしなれたら、子供達に「ミ」を捨てると「ミ」だらけの町になってしまつので、「ミ」を捨てないようにして、と教えてあげて少しづつきれいにしていきます。

編集後記

これまで雪は、やっかひもの扱いされてきましたが、降雪地で生活するものにとつて、逃げることはできません。そこで本号は「雪を活かす。冬を楽しむ」を特集しました。克雪・利雪について産学・官連携による研究開発がなされ、水資源はもとより、クリーンエネルギーとして活用されてきており、雪による発電も研究されており、雪による発電も必要だと感じました。